

表6 天草地方における焼カライモ生産、出荷状況(昭和59年)

市町村名	品 種 名	作付面積	うち 青果用	10a 当たり 収 量	出荷量	うち やきイモ用	出荷時期	農 協 出 荷 率	主な出荷先及び販売価格/kg
本 渡 市	農林1号	45ha	—ha	1,800	169t	169	11月	1%	北九州=50円、長崎=55円
	高系14号	2	—	2,000	—	—	—	—	
牛 深 市	農林1号	35	—	2,000	70	70	11月	20	牛深市内=40円
	そ の 他	38	—	1,800	—	—	—	—	
有 明 町	農林1号	25	—	2,000	400	280	11—2月	3	東京 11月=152円, 12月=155円 1月=205円, 2月=200円
新 和 町	農林1号	37	—	1,500	92	60	10—1月	50	東京 10~12月=60円, 1月=70円
五 和 町	農林1号	75	—	1,500	1,125	750	10—3月	100	長崎 10~1月=52.5円 2~3月=80.0円
苓 北 町	農林1号	8	—	1,800	28	28	1—3月	33	東京, 北九州 1月=100円, 2月=116円, 3月=118円
	高系14号	20	10	2,000	135	135	1—3月	33	熊本市内 1月=128円, 2月=138円 3月=183円
河 浦 町	農林1号	30	—	1,500	120	120	10—12月	20	東京, 大阪, 長崎 10月=60円, 11月=70円, 12月=80円
合計(均)		315	10	(均) 1,790	2,139	1,612		(均)60	

kg程度と安い。若干の農協はそれに満足せず、積極的に販路を開拓し青果向けとして販売する農協もみられるようになった。

しかし、総体的にこの地域は自給的色彩が高く、経営面積も少く、土地条件にも恵まれぬこともあって、販売用カンショとしての感覚は未だうすく、栽培面などに取組む体制も今一歩というところであろう。

あ と が き

カンショが単位面積当たりカロリー生産量が作物中最高であることは、多くの人が知るところである。かつ救荒作物で作況も安定してはいるが、現在は主要食糧から変身し、飽食時代のとき嗜好的保健野菜としてのカンショに対する一般消費者の注文は厳しい。このことを強く銘記して品質本位の生産を図ることが最も必要なことであろう。

本県においては先輩達が営々として築き上げてきた二大産地がある。今後この産地を基盤として、よりよき発展を期することは後輩各位の責務ではなからうか。

読者投稿らん

良質の種子いも供給への反響

先号の読者投稿らんを読んで、その農業の方が誠に気の毒に思います。

その①は、品種がわかりませんが3年間の反収がかなり低く、変動が大きい点です。道南のワセシロでさえ規格内収量を4tにできま

す(全収量5tで規格歩留80%)。この収量不足は農協や企業の指導員の実力、普及員の指導力と農家自身の技術に問題がありそうです

その②は、葉巻ウィルス連作障害と考えると農協の指導員と、ウィルス病なかでも有名な葉

巻ウィルスを知らないでポテト作りをしている農家があるという現実です。

そして③は「馬鈴しょの種いもは国の検査をパスしているので事故の保障はむずかしい」という普及員のことばが確かなら、普及所のあり方は大きな問題であると考えます。とくにウィルス羅病種いもについては、そのためにも採種体系が存在しているのですから。

(北海道・M生)
△お詫び▽本誌5号の「読者投稿らん」で投稿者を北海道H生としましたが、これは茨城N生でした。ここに訂正いたします。